

令和元年度第1回佐賀市環境審議会議事概要

日時 令和元年7月29日(月)

14:00~16:00

場所 佐賀市清掃工場2階会議室

出席者 (敬称略)

■環境審議会委員 10人

市場正良(会長)、橋本辰夫(副会長)、兒玉宏樹、岡島俊哉、小城原直、江下千恵、末次貴浩、中原正登、柏木洋一、西村美也子

(欠席:高島千鶴、小川哲彦、飯盛啓生、副島恵美子、中島直樹)

■事務局

喜多環境部長

環境政策課(森課長、中野副課長、馬場室長、溝口係長、吉谷、内藤、森)

循環型社会推進課(山田課長、山口副課長、羽立係長、本山係長、馬場係長、田中係長)

環境保全課(関課長、中村副課長、三城係長)

衛生センター(森脇所長)

バイオマス産業推進課(江島課長、深川係長、前田主査)

傍聴者

2人

議事内容

(1) 佐賀市環境基本計画の進捗状況について (事務局からの説明後、質疑応答)

【質疑】佐賀市内の電力使用量について、九州電力以外の電力会社からの使用分が分からないということだが、国も省エネ等を推奨しているのに、どうにかならないのか。

【回答】環境省をはじめ関係機関に相談しているが、いずれも現時点ではデータを掴めないという回答であった。引き続き、情報収集を行う。

【質疑】成果指標に「省エネ等の環境問題を意識し取り組んでいる市民の割合」があるが、数値の取り方が難しいのではないか。問題意識の普及啓発のための他の指標は考えられないか。

【回答】本計画は上半期の最終年度であるため、成果指標の見直しが必要かなどを検討して、必要であれば見直しを行う。

(2) 「バイオマス産業都市さが」の目標達成状況について (事務局からの説明後、質疑応答)

【質疑】事業系食品残渣について、病院からも大量に出ていてどうにか利用できないかと思うが、佐賀市ではどうか。

【回答】以前、学校の給食残さを堆肥化する取組を一部の学校で行った。堆肥化したものをどうするかという出口問題が生じ、農家に無償提供したりしたが、結局続かなかった。

【質疑】クリークに生えている外来生物をバイオマス原料として利用できないのか。

【回答】5年前に外来生物であるナガエツルノゲイトウを活用できないか実験してみたが、生命力が

強く、実用化しなかった。今後も他自治体の取り組み等を鑑みて調査していきたい。

【質疑】世界でも低炭素から脱炭素、脱炭素から炭素回収へシフトしているのですが、CCU 事業について、もう少し市民への啓発をした方が良いのではないかと。

【回答】二酸化炭素を回収して活用する CCU 事業は世界的に広がりを見せていて、佐賀市の事業も海外のメディアから注目されている。昨年度は市報での連載や新聞への掲載、バイオマス勉強会など実施したが、まだまだ市民への啓発は進んでいないので、今後も続けていきたい。

【質疑】カキ殻は一時期土壌改良剤として使われていたようだが、やめた理由は何かと。

【回答】塩分除去がネックとなってコストが見合わなくなり、事業継続とならなかった。

(3) 佐賀市環境マネジメントシステムの運用状況について

【質疑】平成 30 年度の電力契約会社で排出係数が前年度より高くなっているものがあるが、その理由は何かと。

【回答】電力の供給が需要を下回る場合に他の電力業者から電力を調達するため、その事業者の係数が影響することや、排出係数の算出方法に前年度の係数が影響することなど、複合的な要因がある。

(4) その他の報告事項について

今後の環境審議会の在り方や温暖化対策の推進に関する意見

- ・グリーンツーリズムや植樹の取り組みが報告されているが、担当課が本来の目的を理解しているのか。生物多様性その他いろんなことが絡んでいるので、担当部署任せにせず、環境政策課も同時に関わるべきではないかと。
- ・トンボが減少している原因として農薬の影響があるということ、市もきちんと認識しておくべきではないかと。
- ・温暖化対策の普及啓発として、市民は何ができるのか、企業はどのような教育をすべきかなど、部会をつくって議論した方が良いのではないかと。